

# 呉錦堂を語る会通信

NO.4 May. 2012

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34  
橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」  
Tel. 078-911-1671  
編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員  
発行日 2012.5.1



## 聞き取り、小東野開拓百年史（1）

呉錦堂さんは、明治41(1908)年から44年にかけて、小東野の土地・原野・ため池を購入し、小東野開拓事業に着手します。工事開始は大正5(1916)年です。それから、丁度、百年です。大正15(1926)年1月、呉錦堂さんが亡くなってからでも86年になります。最初期の入植は21戸といえます（呉伯瑄氏）。当時のことを自分の体験として記憶している人はもうおられません。かろうじて、祖父母、あるいは、両親から伝え聞いた話としての記憶です。そして、それさえも、いつまでも残るものではありません。

幸い、今年の初午のお祭りに参加した折、知り合いになったお三人から、村の古い話を聞く機会を得ました。当通信NO. 4、NO. 5とNO. 6に分けて報告いたします。

## 山本富恵さん作、村の子どもたち絵『ひらけゆく小東野』

今から17年前、『ひらけゆく小東野』を児童たちと絵によってたどってみたいと思い、小学校上級の児童数人に絵を描いてもらった。そして、昭和35年5月5日こどもの日に発表しました。その後、農協婦人部の家の光大会にぜひにと言われ、一部修正し、付記して、昭和35年8月20日に出演しました。私が幼い頃、



小東野というと、旧小東野か新小東野かとよく聞かれたものです。これらの絵は、新小東野の部面を物語っています。

しかし行政上は一つで、協同事業や共同作業は共に協力しています。

今日まで苦勞して築き上げた財産を残して、年若い次々に亡くなられています。せめて一部だけでも書きとめて後世に残してはと思い、17年前に作った『ひらけゆく小東野』を此の度、写真にうつしかえました。

昭和52年5月 山本富恵 記 66歳



昭和61年4月20日、移情閣友の会は“呉錦堂の足跡を訪ねて”小東野へバス旅行をした。上の写真は小東野公会堂で会員を前に話をしている山本富恵さん。左は陳徳仁孫文記念館副館長

### ■ 編集後記

平成24年4月1日の午後、小東野の山本正和氏（昭和34年生まれ。下の写真）宅で、お祖母さん、富恵さん（明治43年生まれ）が残されたアルバムを見せていただきながら、いろいろ、お話をお聞きしました。

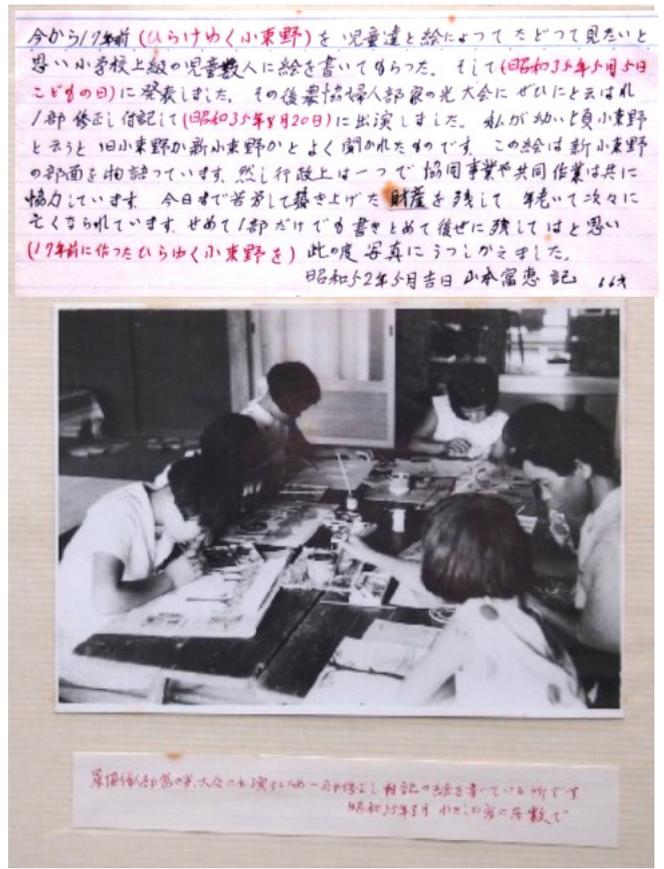
貴重な資料を快くお見せ頂きましたこと、心からお礼申し上げます。

（編集委員  
橋 雄三）





1. 『ひらけゆく小東野』表紙



2. 近所の子もたちと絵を描く山本富恵さん



3. 小東野村のお稲荷さん



4. 開墾はじまる







昭和6年 満州侵襲がありました。つづいて支那事変になり ついに大東亞戦争になりました。サイロや警鐘が空襲警報を知らせるとゴースターと重苦しい飛行機の音が聞えます。「空襲警報B29だ」と云って防空壕へとびこんでいました。国をあげての戦いで壮健な男子は赤國のために出征され農家はとりやめ、子供を守っていました。何かの事故に遭ったので赤國の人は赤國の事農家も作つた物を自由に賣れず割当の絵紙でそれ以外は自由を賣りました。何か自由を賣っている現在の若い人にはとてい信じてもらえないでせう。この写真も明石が爆撃を受けた時の思い出です。爆撃は大きな町を日おけて来ますのでこの村も時は遠かざまは混雑します。道を広くするために 明石でも立ちのきの家がたてられました。  
小倉重治 絵

11. 太平洋戦争が始まりました



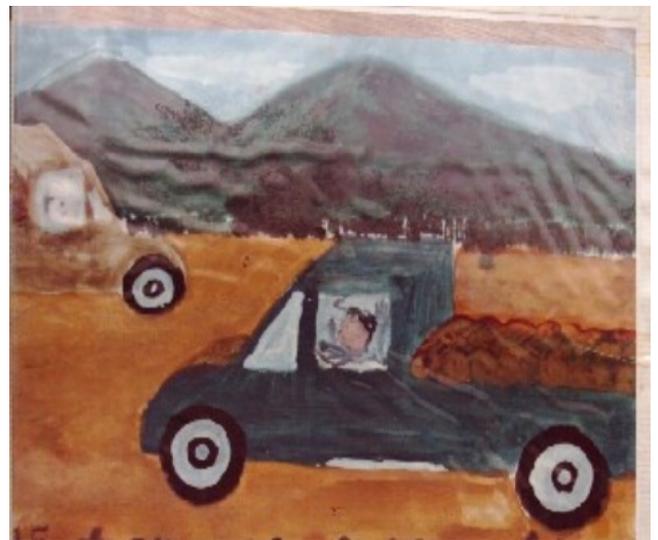
見たところ普通の家のようですが小東野の公会堂です。明石の立退きの家が建てられたのです。昭和20年の春です。終戦前空襲空襲と烈しいサイロや警鐘を聞きながら集落の惣出で 明石から車で運んだのです。現在ですトラックでわけなく運ばれるのですが。集落の人々は大変苦勞してこの公会堂が立ちました。二階が集会所場で階下は台所や物置きになっています。いかに見えていゝのは共同出荷所です。昭和32に建てられました。この公会堂がたつまでは、木の下の公会堂と云って遊岩の松の木の下で、集会をしていました。冬向や雨の日は責任者の家と云つても赤國屋がわりの家です。が土間まで使っていました。共同出荷所は 40年の台風でたおされました。早速出荷場はたてかえられました。その後福岡病院の復興を受けて現在の公会堂が建てられました。  
橋田まり子 絵

12. 小東野村の公会堂です



昭和20年8月14日 ついに敗戦の3日目を見ました。その何年間も息をたかつかつて田は全部植えられませんでした。大豆やさつまいもを作つて辛うじて生活をつづけていました。戦い敗れて明るい希望の光が射して来ました。社会事業が發展して来た事です。今や19時かた。ランカ村が昭和21年10月5日午後5時 パツと明るい電燈村になりました。同時にラジオのメロディーが流れる村。今から14年前の事です。電燈が文化生活のまざしになりました。  
竹内修士 絵

13. 昭和21年10月5日午後5時、電燈がつけました



敗戦の翌年と共に大きな台風とつよみおしよみ、秋の収穫がやつてまいりました。昭和23年 神楽村が神戸市に合併されて神戸市東区に神楽町小東野と呼ばれる様になりました。もう一つ敗戦が不幸中の幸となり憲法が改正され社会は民主化されて農地改革が行われた事です。今まで小作で苦しんで来た農家がゆめに思われるた農地の解放に自力農に変わった事です。集落の人々は一度に治癒付いていよいよ熱心に耕土の培養に又農業復興の取得に努めました。台風之餘没はまだ癒えませんでした。昭和26年 耕地の交換命令が行われた事です。初 附帯事業として農道も拡張され、たけは家の近に二反三反と団を台しとのたげへもオート三輪(現行では小形四輪)が横づけになりこの上もなく便利になり農繁期の作業に能率を上げています。  
沼谷等 絵

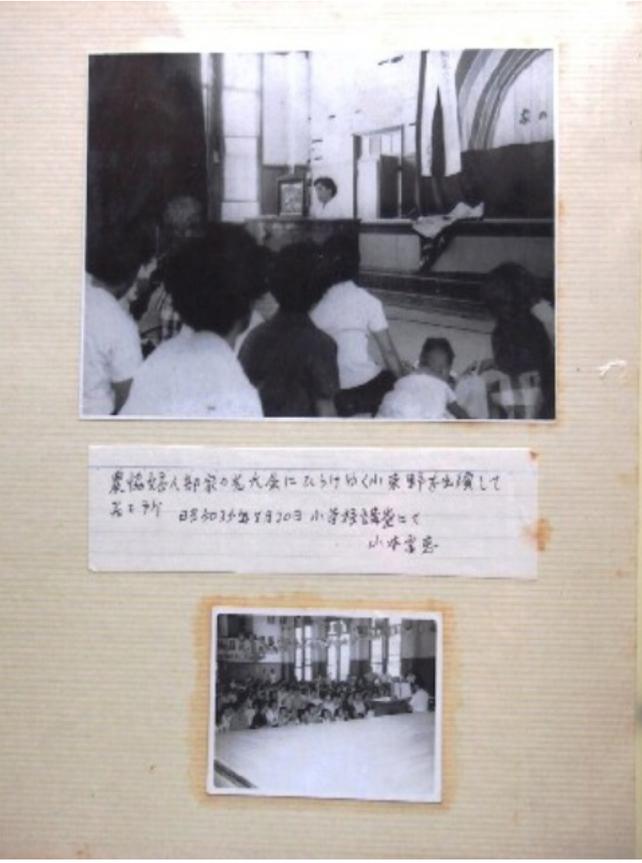
14. 終戦、そして農地改革、村の様子は変わってきました



15. 小東野村は発展し、神出の“新開地”といわれるようになりました



16. 昭和32年、呉錦堂頭彰碑ができました



17. 昭和35年、〈家の光大会〉で発表する山本さん



上は小東野村の中心部に立つ呉錦堂頭彰碑（平成24年11月23日撮影）。この日は呉錦堂感謝祭があつて、お供えが並ぶ。右はその裏面。賛同者の名が連なる